

# 株式会社テラプローブ 決算説明資料

2020年12月期

# 2020年12月期 業績説明

本資料では、増減率について、1,000%を超える場合や、  
比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合、  
原則として「-」と表示しています。

Copyright© 2021 Tera Probe, Inc. All Rights Reserved.

## 2020年12月期 業績サマリー

	CY2020		QoQ		CY2019		CY2020		YoY	
	億円	3Q	4Q	増減	%	累計	累計	増減	%	
売上高		43.0	48.7	5.7	13%	169.1	183.4	14.3	8%	
営業損益		△ 0.5	1.6	2.1	-	△ 1.1	4.3	5.4	-	
		△ 1.2%	3.3%	4.5pt	-	△ 0.7%	2.3%	3.0pt	-	
経常損益		△ 1.6	0.7	2.3	-	△ 3.9	1.6	5.6	-	
		△ 3.8%	1.5%	5.3pt	-	△ 2.3%	0.9%	3.2pt	-	
特別利益		4.3	1.8	△ 2.4	△57%	8.0	10.6	2.6	32%	
特別損失		3.3	1.5	△ 1.8	△55%	3.4	4.8	1.4	41%	
税金等調整前純損益		△ 0.6	1.1	1.7	-	0.7	7.4	6.7	-	
親会社株主に帰属する 四半期純損益		△ 1.7	1.2	2.8	-	△ 2.4	2.4	4.8	-	
	US\$	106.84	105.16			109.29	107.24			
	NT\$	3.61	3.63			3.53	3.63			

○ 売上高：QoQ増加（PTI※からの事業譲受に加え、車載向けLogic製品の受託量回復）

○ 営業損益、経常損益、純損益：売上高の増加に伴い、QoQ改善し、いずれも黒字回復。

○ YoYについても、売上が増加し、営業損益、経常利益、純損益ともに黒字回復。

※ Powertech Technology Inc.

## 表左側：第3四半期と第4四半期の比較

売上高：13%増加

- ① 親会社PTIから事業譲り受け
- ② 車載向けロジック製品が、コロナウイルス感染症拡大の影響から回復

損益：第3四半期の赤字から、黒字回復

売上高の増加に伴い、営業、経常、純損益のいずれも黒字回復

## 表右側：年間での比較

売上高：8%増加

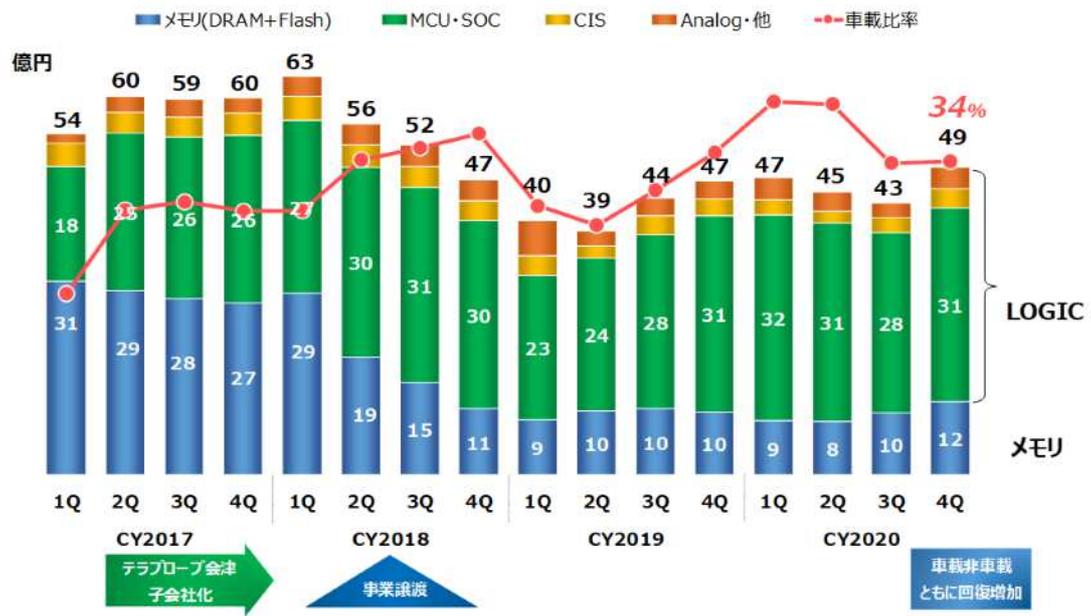
- 2019年は、前半に、主要顧客の在庫調整による大幅な需要減
- 2020年は、貿易摩擦や、感染症拡大による需要の減少があったものの、上記①等に加え、新規に獲得したファイナルテストビジネスの寄与等

費用

- 年前半の先行投資によって、減価償却費の増加などがあったものの、
- その後の、市場環境に応じた設備投資の適正化や、費用抑制への注力

損益：年間においても、営業、経常、純損益のすべてについて、黒字回復

## 連結売上高推移（製品別）



### 車載比率

2020年 第3四半期と同水準

← 車載の回復に加えて、車載以外の分野も増加・回復

2020年度第4四半期の地域別車載比率

日本 46%

台湾 30%

## 連結売上高営業利益の推移

**2019年**

主要顧客の在庫調整の影響による売上高の落ち込み

→ 思い切ったコスト構造の改善

→ 同じ47億円の売上高水準で、

2018年 第4四半期：赤字

2019年第4四半期以降：黒字化

**2020年**

- 年前半の先行投資等による費用増で、営業利益の回復は控えめ
- ただし、バランスの取れた売上構成と構造改革により  
下振れ要因に対して、底堅い事業構造

## 2020年12月期 キャッシュフロー-財政状態

## キャッシュフロー

	CY2020 億円	CY2020 7~9月	CY2020 10~12月	QoQ		CY2019	CY2020	YoY	
				増減	%			増減	%
営業CF	25		23	△ 2	△7%	59	97	38	65%
投資CF	△ 11		△ 3	7	-	△ 48	△ 54	△ 6	-
FCF	14		19	6	41%	11	43	33	303%
財務CF	△ 13		△ 18	△ 4	-	△ 32	△ 30	2	-

## 主要B/S項目

	CY2020 億円	CY2020 9月	CY2020 12月	QoQ		CY2019 12月	CY2020 12月	YoY	
				増減	%			増減	%
現預金	109		111	2	2%	108	111	3	2%
有形固定資産	374		371	△ 3	△1%	387	371	△ 16	△4%
総資産	549		547	△ 2	△0%	569	547	△ 22	△4%
有利子負債*	209		194	△ 15	△7%	221	194	△ 28	△13%
純資産	307		310	4	1%	303	310	8	3%

\*有利子負債 = 借入金 + リース債務

○ FCFプラスを継続。また、前四半期末と同水準の現預金を維持。

○ その他、自己資本比率等、安全性指標改善

## キャッシュフロー

設備投資のコントロールもあり、  
四半期ベース、年間ベースともに、  
フリーキャッシュフロー、プラスを継続

## 主要B/S項目

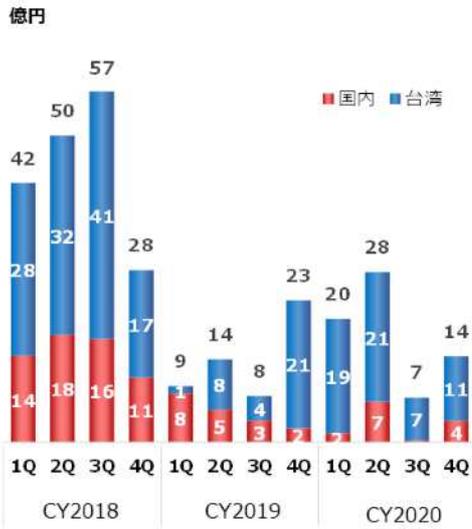
自己資本比率や、D/Eレシオ(※)等も改善  
→ 市況や業績の変動に耐えられる財務体質を維持

※：(有利子負債 - 現預金) / 自己資本

	2019/12	2020/9	2020/12
自己資本比率	40.2%	41.9%	42.5%
D/Eレシオ	0.49	0.43	0.35

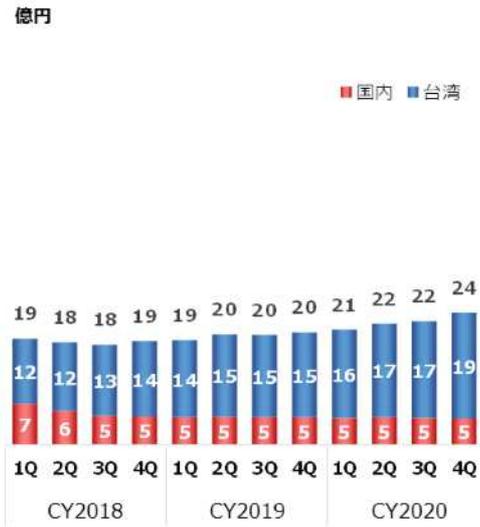
## 設備投資及び減価償却

## 設備投資



○ コロナ、貿易摩擦に対し、柔軟で適切な判断  
→ 3Q以降の投資を抑制延期 (リードタイム: 3~5ヶ月)

## 減価償却



## 設備投資

検収ベースで計上

2020年前半は、受託増加を見込んで

2019年後半から手配した設備が納入

→ 償却費増加の要因、ただし、

その後は、感染症の拡大や米中摩擦の影響を踏まえた、

投資の適正化を図り、既存資産の売却・整理も継続し、

資産のスリム化・効率化を推進

# 2021年12月期 第1四半期 業績予想

本資料では、増減率について、1,000%を超える場合や、  
比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合、  
原則として「-」と表示しています。

Copyright© 2021 Tera Probe, Inc. All Rights Reserved.

## 2021年12月期 第1四半期 業績予想

	CY2020		CY2021		QoQ		CY2020		CY2021		YoY	
	億円	4Q	1Q	増減	%	1Q	1Q	増減	%			
売上高	48.7	53.3	4.6	10%	47.0	53.3	6.3	13%				
営業損益	1.6	5.6	4.0	248%	3.5	5.6	2.1	59%				
	3.3%	10.5%	7.2pt	-	7.5%	10.5%	3.0pt	-				
経常損益	0.7	5.1	4.4	608%	3.3	5.1	1.8	54%				
	1.5%	9.6%	8.1pt	-	7.0%	9.6%	2.6pt	-				
親会社株主に帰属する 四半期純損益	1.2	1.6	0.4	36%	1.7	1.6	△0.1	△7%				
	US\$	105.16	104.16		109.52	104.16						
	NT\$	3.63	3.63		3.62	3.63						

- 売上高: 車載向けLogic製品の回復等により、需要堅調  
CY2018の事業譲渡後、四半期で最大
- 営業利益、経常利益、純利益:  
売上高の増加に伴い、いずれも増加

**売上高:** 前四半期比 13%増

2018年5月の、マイクロンへのDRAM向けテスト事業譲渡後における、  
四半期ベース最大

前四半期に引き続き、車載向け製品の回復等による、

- ① 堅調な需要
- ② 売り上げの増加

**損益:** 売上高の増加に伴って、前四半期、前年同期のいずれに対しても改善

純損益が前年同期比で減少しているのは、

昨年の第1四半期は、設備の売却益等による

特別損益が約1.2億円寄与していたため

# 2021年方針

## 2020年の振り返り

### 1. 方針と成果

方針		成果
① 売上拡大	お客様のグローバル化サポート …	海外展開支援: 4社 グループターンキー量産受託: 6件
② 品質、技術レベルの更なる向上	PTIグループとしてのR&D活動推進 …	R&D実績: 5件 センサテストの自社仕様開発 旧テストの機能拡張と、グループ活用
③ ミニマルオペレーションの継続	必要かつ適正な投資水準の見極め …	コロナ禍、米中対立に柔軟に対応 スマートオペレーション導入 少人化ソフト導入

### 2. 事業の集中・集約

- ① PTIからのウエハテスト事業譲受
- ② テラプローブ会津の事業終了決定 (九州事業所への集約)

## 2020年の方針と成果

日本、台湾顧客の世界的に競争力のある製品分野を核として成長するため、

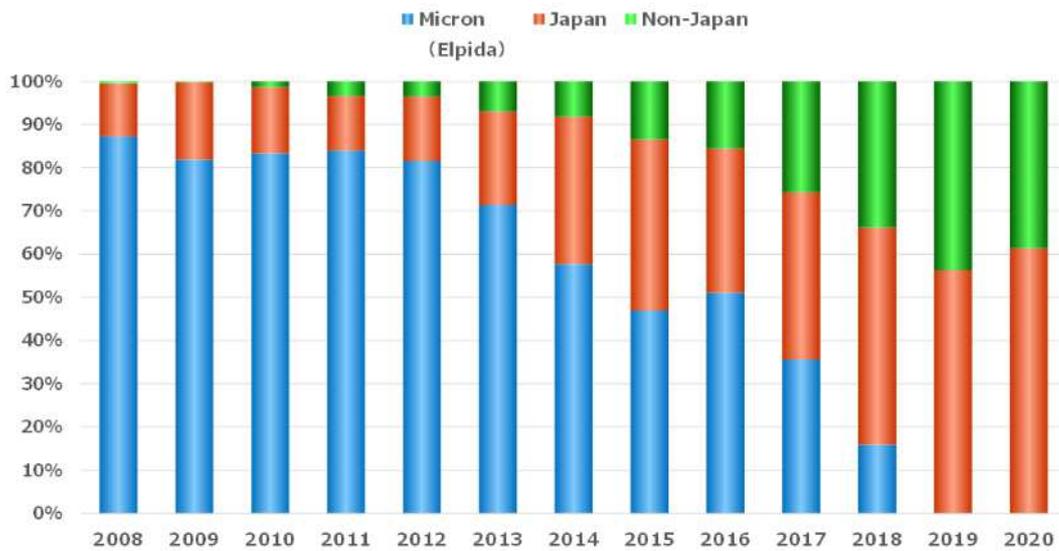
- 半導体の生産がシフト、集中する台湾での顧客利便性を提供し、
- 自社及びPTIグループと連携した技術力をベースに、顧客へ様々な提案を行い、併せて、
- 装置型産業として、設備投資そのものや、オペレーションの最適化を継続

### 事業の集中・集約

経営レベルにおいて、事業資源を集中・効率化するための施策を実行・決定

- PTIからの事業譲り受け
- テラプローブ会津の事業終了

## 顧客国別 売上高構成比 (TPJ &amp; TPA)

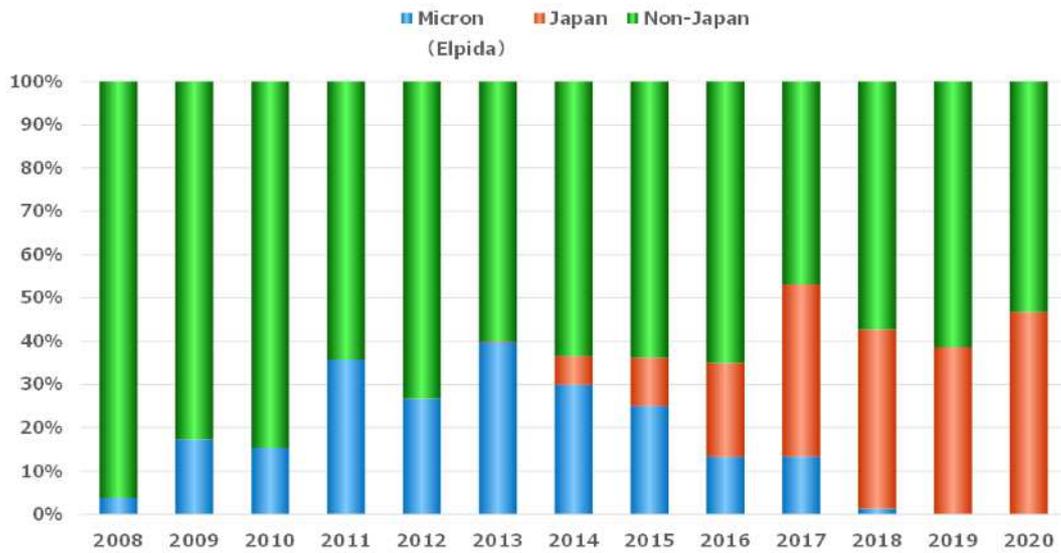


TPJ: テラプローブ  
TPA: テラプローブ会津

国内拠点と、台湾子会社(次ページ)の双方で、日系顧客向けが回復・増加  
→ 取り組みの成果

昨年の厳しい環境下における、黒字回復に寄与

## 顧客国別 売上高構成比 (TPW)



TPW: TeraPower Technology Inc.

顧客とともに、オペレーションの改善を重ね、  
 要求される品質、コスト、納期の水準に合致  
 → 日系顧客の受け皿としての評価が定着

## 2021年方針

### ① 売上拡大

お客様のグローバル化サポート、グループターンキー提案  
車載テスト比率の向上 中期目標: [日本]50% [台湾]40%  
データベースソリューションの構築と提案

### ② 品質、技術レベルの更なる向上

PTIグループとしてのR&D活動推進 (WT/FT)  
強み (量産ノウハウ、技術資産) を活かした開発活動推進

### ③ ミニマルオペレーションの継続

必要かつ適正な投資水準の見極め  
技術的なコスト低減アプローチの実行

以上を踏まえて、本年度も、この方針を継続

注力分野である車載については、

日本、台湾それぞれに具体的な目標比率を設定

日本 50%に対し、台湾 40%とした理由：

- 台湾では、当社の強みである車載ビジネスの拡販を継続しつつ、
- 生産量、先端技術の両面で、世界的に重要なポジションであることから、5G、AI向けなどの先端品の取り込みも重視

引き続き、不確定要素が大きい環境下ではあるものの、

一層の成長と、業績の改善に注力



# Appendix

## アプリケーション別売上高推移

(億円)

	2016	2017	2018	2019	2020
産業・医療	6.0	6.8	9.3	10.3	12.3
車載	28.8	52.3	73.5	52.5	68.8
コンシューマ	153.1	119.4	129.0	98.4	98.7
他			5.7	7.8	3.6
計	187.9	178.5	217.4	169.1	183.4

	2016	2017	2018	2019	2020
産業・医療	3%	4%	4%	6%	7%
車載	15%	29%	34%	31%	38%
コンシューマ	81%	67%	59%	58%	54%
他			3%	5%	2%
計	100%	100%	100%	100%	100%

## 本資料における注意事項等

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社テラプローブ（以下、弊社）の現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料の一部には監査法人の監査やレビューの対象外の内容が含まれております。
- 本資料に記載された内容は、発表時点において一般に認識されている経済社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 投資を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧くださいの上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社テラプローブ 財務部

TEL: 045-476-5711

E-mail: [ir@teraprobe.com](mailto:ir@teraprobe.com)

URL <https://www.teraprobe.com/>